法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-14

中洋折衷の建築 ： 汕頭市と海口市の騎楼建築

羊, 沢華 / YANG, Zehua

(出版者 / Publisher)
法政大学大学院デザイン工学研究科
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学大学院紀要. デザイン工学研究科編 / Bulletin of graduate studies. Art and Technology
(巻 / Volume)
12
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
8
(発行年 / Year)
2023-03-24
(URL)
https://doi.org/10.15002/00030225

中洋折衷の建築
—汕頭市と海口市の騎楼建築—

CHINESE-WESTERN ELECTIC ACHITECTURE
-ARCADE BUILDINGS IN SHANTOU AND HAIKOU,CHINA-

羊沢華
Zehua YANG
主査　安藤直見　　副査　高村雅彦

法政大学大学院デザイン工学研究科建築学専攻修士課程

This study focuses on the existing arcade buildings in China, paying attention to the origins, morphological composition and appearance characteristics of this architectural type, and compares it with similar architecture overseas in researching the streetscape and overall space of the district, and clearly presents its differences.　It also refines the features and elements of the arcade buildings to create a simplified modelling, which represents the image of the arcade buildings historical district in an easy-to-understand way.

Key Words *: Arcade buildings, Shophouse, Historic architecture,* Streetscape

１．はじめに

現在，多くの国は地域文化を発信するため，歴史的街区を保存維持することを大事にしている．中国南方地区の海南省・広東省・福建省などには，「騎楼」という近代に登場した「商住一体」の民居建築が現存してある．海外では，こういう形式の建築を「ショップハウス」（shophouse）と呼ぶこともあり，南アジア・東南アジア諸国にもよく見られる．

騎楼は中洋折衷の代表的な建造物であるため，貴重な歴史文化価値があり，建築と街区の唯一無二の魅力を発見し，さらに国内外に発信することが大切である．

２．調査研究の目的と内容

（１）研究の背景

騎楼は，一階にベランダウェイ（歩行者用通路）があり，一階の内部空間は店舗として利用され，二階と二階以上の部分は居住空間とされている．隣家と壁を共有しながら長屋式になり，連続的なベランダウェイが形成される[1]．騎楼の二階以上が道路側に突き出しており，その突き出た部分がアーケードとなる．建物の断面を遠くから眺めると，人が馬の上に乗っているような形から「騎楼」と名付けられた[2]．

「騎楼」という正規の言葉は 1912 年に広東省警察庁が発行した都市計画制度の中に登場した[3]．この建築様式の起源は諸説ある．

橋谷氏の研究によると，ショップハウスが東アジア各地へ広がった直接の起源はシンガポールにある．シンガポールのショップハウスは，実施した都市計画によって 1820 年代に誕生した[4]．

肖宗平の研究によると，18 世紀末以降，中国南方地区の多くの人々が東南アジアに渡り，生計を立て，ビジネスを展開した．1858 年の「天津条約」により，汕頭市などの 10 港が開港され，港湾貿易は盛んになった．そして，華僑が故郷に帰り，商業施設や都市の建設に投資し，騎楼建築をもたらしてきた[5]．

陳潇は，18 世紀，海上貿易を利用した西洋の植民地運動の広がることにより，騎楼建築様式の拡散ルートが形成され，インドで最初に形成された後，西洋の植民地拡大とともに，マレー半島に広がり，また，マレー半島を結節点として，中国の広州，海口，台湾と 3 つの海路で拡散したと提示した[6]．（図 1）

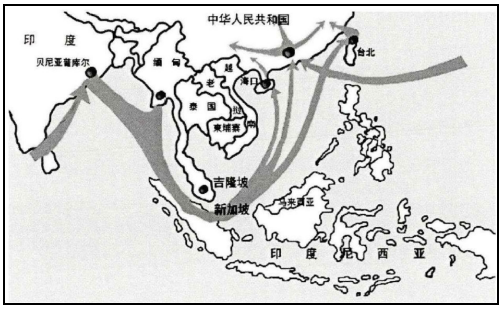

図１　騎楼建築様式の拡散ルート
（出典　陳潇　「海口騎楼建築研究」　2013）

（２）研究対象

この研究は，中国の南方地区に位置する「広東省汕頭市小公園」（図2）と「海南省海口市騎楼老街」（図3）に注目し，この二つの歴史的街区の実地調査と取材をした．

選定理由として，汕頭市と海口市は多くの，東南アジアに活躍した華僑の出身地であり，最も早く開放した港湾都市として，騎楼建築はこれらの地域に多くある．また，「汕頭市小公園」は中国に現存する最も面積が大きい騎楼建築街区であり，「海口市騎楼老街」には，中国初の騎楼が建設された説もあったので，選定対象として研究する価値が高いと思う．

また，この建築様式が多く保存されている東南アジアのマレーシアとシンガポールも対象とし，比較研究を行う．

図2　広東省汕頭市小公園（著者撮影）

図3　海南省海口市騎楼老街（著者撮影）

（３）研究の目的

本研究では，中国の南方地区に現存する伝統的な片側式アーケードの「騎楼」建築に注目し，騎楼の起源・形態構成・風貌特徴を含め，街区の街並みと全体空間を研究する上で，海外の類する建築と比較し，その違いを明らかに提示する．

また，騎楼は東洋と西洋の建築文化が融合した歴史的な建築であり，貴重な文化遺産となっているため，騎楼建築の特徴と要素を類別で分析し，わかりやすく騎楼建築歴史的街区の全体像を表す．

３．騎楼建築歴史的街区に関する研究

（１）中国広東省汕頭市小公園

汕頭市（図4）は1860年の正月から開港し，中国最も早く世界に開かれた港湾都市の1つになった．その後，この地域の繁栄が始まり，100年の歴史を持つ有名な商業港になった．

汕頭市小公園歴史的街区は，汕頭市が海辺の漁村から新しい港湾都市へと発展する過程を見届けた．街区の地図を見ると，街区の中心に位置する「中山記念亭」（1934年に建てられ）から，放射環状型で，多くの騎楼建築が建てられた．政府が主導する修復プロジェクトにより，20世紀30年代の汕頭市の賑やかな街区印象が再現され，「百年の歴史がある港」のイメージが見られる．

図4　汕頭市の位置（著者作成）

汕頭市小公園歴史的街区は，（1）放射環状型の道路網パターン，（2）中洋折衷の騎楼建築群，（3）多元的な地域装飾文化，と三つの主な特徴があると考えられる．

まず，当時小規模貿易流通と簡単な交通運輸方式に応え，放射環状型の道路網パターンは，この地域を 2～4 ヘクタールずつの商業・住宅ブロックに細分化した．百年以上の時間を経っても，小公園街区のパターンはあまり変わらず，現在，中国唯一の放射環状型道路網パターンを持つ騎楼建築街区となった．

1920 年代から 1930 年代半ばにかけて，小さな商業港である汕頭には，19 の通りにさまざまな騎楼建築が登場した．1932 年に南生百貨会社がこの街区の中心部にビルを建て，その後多くの資本家がこの周辺の土地を購入して店舗を建設した．1934 年 12 月，小公園の中心に位置する空き地に中山記念亭が建てられた．

元々東南アジアで活躍した華僑は，西洋の建築様式と技術を，汕頭地域の風土・当時の商業形態・汕頭の伝統工芸と融合させ，多元的な複合建築「騎楼」を完成させた．

また，小公園の建築は芸術的な価値が高く，西洋の建築様式を取り入れただけでなく，石彫，木彫，土偶，象嵌磁器などの汕頭伝統的な装飾芸術がよく見られる．

汕頭市小公園歴史的街区には，中山記念亭を中心として，安平路・国平路・居平路・永泰路・商平路と五つの主な通りが繋がり，街路沿いに 3～4 階建ての騎楼建築が多く建てられ，整然としたスカイラインが形成された．

（２）中国海南省海口市騎楼老街

海口市（図5）は海南省の省都であり，1858年の「天津条約」により，汕頭市と同時に開港された．「海口市志」によれば，1849年，海口市の中心部，当時は四海楼街と呼ばれ，現在は博愛北路に位置する場所に，中国初の騎楼建築が建てられた．

騎楼老街歴史的街区は，「中国と西洋の建築特色が極めて豊富で，道路両側に100年近い歴史を持つ騎楼建築が立ち並び，海口市の変化を物語っている」という理由で，2009年に「中国十大歴史文化名街」に登録された[7]．

図 5　海口市の位置　（著者作成）

海口市騎楼老街歴史的街区は，（1）騎楼に住む原住民が多い，（2）伝統民居と外来の騎楼様式の融合過程が明晰，と二つの主な特徴があると考えられる．

まず，中国の多くの歴史的街区と異なり，騎楼老街歴史的街区には，600 棟ぐらいの騎楼建築があり，現在では 4 万世帯，17 万人が暮らしている．今でも「生きている」歴史的街区と言われている[7]．

百年以上の歴史を持つ海口市騎楼歴史的街区は，清代（1644～1912 年），中華民国（1912～1949 年），新中国（1949 年～）という 3 つの時代を経てきた．建築の空間的な進化は，萌芽期・成熟期・停滞期・再建期の四つの段階にまとめることができる[6]．

a）**萌芽期**：清代末期，海口古城の民居建築は，ほとんど伝統的な「合院式住居」であり，初期の騎楼建築は伝統民居に基づいて改修された．例えば，道路に近い合院空間を撤去し，元の建築空間を利用して西欧風の騎楼ファサードが作られた．この時期，改修された住宅は，道路沿いに雨風をしのぎ，通行できるベランダウェイが形成されたが，上部は居住空間や収納空間にならず，平面構成でも合院式住居のままだった．

b）**成熟期**：中華民国初期，騎楼建築の発展は全盛期を迎えた．騎楼という建築様式は政府に採用されて普及された．また，東南アジアから帰国した多数の華僑が，長年の蓄えを持ち帰るだけでなく，西洋の先進な建築文化・建築技術・材料技術を選択的に移植し，三段式の立面構成も一般的になった．人口の増加と商業の繁栄により，騎楼の間口の幅は，清代の 10m から 3～6m に縮小され，レイアウトも，中庭がなくなり，奥行きが連続的に変わった．「下店上居」という標準パターンが形成された．

c）**停滞期**：新中国が成立した（1949 年）後，騎楼の多くは国有化され，国営企業の社員寮に転用され，恣意的改修が加えられ，騎楼のあるべき様子が破壊された．

d）**再建期**：1980 年代，中国が改革開放時代に入ると，政府が一部の騎楼建築を返還し，居住者が自分たちのニーズに応じて改造した．伝統的な中庭と吹き抜けが取り消しされ，閉鎖的な内廊下空間とされ，1 階はすべてオープンな商業取引空間として利用された．また，建設技術の成熟により，この時代の屋根の形は中華民国時期の二重勾配屋根から陸屋根に，床スラブは木造から鉄筋コンクリートに変更されたものがほとんどだった．

（３）汕頭市と海口市の騎楼建築の違いとその原因

海口市と汕頭市を比較すると，二つの地域とも1860年「天津条約」によって開港し，東南アジアから騎楼という建築様式が導入されて発展してきた．現在でも大規模の騎楼建築群が保存され，歴史的文化保護街区となっている．

海口市の騎楼建築は，従来の伝統的な「合院式住居」に基づいて改修されたため，「騎楼」への変化がはっきり見られる．伝統民居と外来の騎楼様式がどんどん融合し，建築技術の革新にも加え，現在魅力的な建物が形成され，歴史の痕跡も最大限に保存された．

汕頭市の騎楼建築は，1860年開港してから，商業地域を建設した時，華僑が騎楼様式を持ち込み，多くの騎楼建築が空き地に建設したため，伝統民居と西洋建築文化のぶつかり合いの痕跡はそれほど著しくない．

（４）マレーシア・ジョージタウン

マレーシア・ジョージタウンは，多様な空間が混在する町であり，植民地時代を経た東洋と西洋の文化が融合，多民族の融合，そして近年では，世界遺産への登録の準備が進む中，歴史的建造物の保存・再生が図られ，歴史と近代の融合が進んでいる．

ジョージタウン中心部（図6）のおもな商店街・住宅街は，一部の高層ビル街を除き，ショップハウスと呼ばれる壁を共有する連続長屋型店舗併用住居が建ち並ぶことによって形成されている[8]．

図 6　マレーシアのショップハウス
（撮影者　安藤直見）

（５）シンガポール・牛車水

1996年のシンガポール光局による「旅行都市会21世紀展望」計画の一環として，1998年に9千7百万ドルの費用をかけて本格的に「牛車水発展プロジェクト」が実施された．

プロジェクト実施以降，「牛車水」（図7）では本格的な整備が開始され，朽ちた建物は修復され，色がげて薄汚くなっていた外壁は，パステルカラーを基調にした色彩で統一され，昔ながらの土屋，貨屋，「肉乾」店，「月餅」店，コーヒーショップ以外にも，小綺麗なカフェやレストラン，多国籍料理店，土物屋，一般のオフィス等も「牛車水」に出現した[9]．

図 7　シンガポールのショップハウス
（撮影者　安藤直見）

４．中国の騎楼建築と東南アジアのショップハウスの比較

中国の騎楼建築と東南アジアのショップハウスは，発展経緯とデザインコードなどの違いにより，違う表情を出しており，違う体験をもたらしてくれる．

騎楼建築とショップハウスを比較すると，ショップハウスは，装飾に大胆な色使い・機能に多様な使い方が特徴であり，やや混雑と感じる一方，賑やかな住民生活を展示してくれる．

騎楼建築は，政府の指導に従って修復や維持してきた．その過程に，元住民の生活方式と街区のイメージが多少変わったが，歴史的な建築としての騎楼の姿が保存された．

（１）中国騎楼建築の特徴

a）立面の構成要素

騎楼建築の立面構成について，多数の騎楼建築は，3スパンで構成される．また，縦方向を見ると，立面は三段式で設計され，建築の下段（一階部分）は列柱とベランダウェイ，中段はヨーロッパ風の窓とファサード，上段はパラペット壁である（図8）．

図8　騎楼のファサードとパラペット壁（著者撮影）

下段の列柱は，主に中国風のモチーフがある角柱を中心として，簡略化したヨーロッパの古典的な円柱も採用された．一般的に，柱の高さは約3．5mであり，この高さに対して，ベランダウェイの幅は約2．5mであり，居心地の良い歩行空間が作り出された．

中段には，東洋と西洋が融合した建築様式が見られる．ファサードにはルネサンス，バロック，ロココ，古典主義などの西洋建築様式と，中国の古典的なモチーフが見つけられ，窓装飾も多様である．ファサード全体は中心軸の左右対称を強調し，リズム感を持たせる．

上段のパラペット壁は，騎楼建築の輪郭線を構成する主要な要素である．パラペット壁の設計は二つの手法があると思う．一つは，装飾性を重視したもので，主にアーチの形とした．もう一つはよりシンプルなもので，分割された透かし彫りの欄干を繰り返し，リズム感を作る．

b）平面の構成要素

一階は，奥行きの幅が約2．5mのベランダウェイと完全に引取を目的とする商業空間で構成される．内部には吹き抜けがなく，奥行きの寸法はそれほど大きくない．

二階と二階以上の部分は居住空間であり，整然とした美しい立面を考慮した上，服を干すなどの日常生活のためのベランダが設置されていない．

陸屋根であるため，屋上までのぼることができ，屋上は日常生活のもう一つの場所となるではないかと思う．

（２）東南アジアのショップハウスの特徴

a）立面の構成要素

ショップハウス（図9）は，ほとんど間口の幅が1スパンしかなく，2～3階建てのものが多い．騎楼建築と同じ三段式で構成されると言ってもいいだろう．

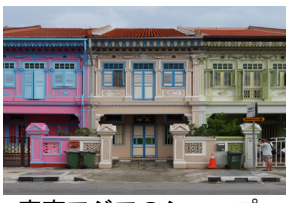

図9　東南アジアのショップハウス
（撮影者　安藤直見）

下段はシンプルな角柱と円柱であり，細部に工夫した痕跡が少ない．

中段には，壁面の面積に対する割合が大きい開口部があり，複数の窓とされている．ファサードについて，折衷したヨーロッパ風のバロック・ゴシックではなく，非常に東南アジア風の装飾だと思う．

上段は妻切屋根が多く採用され，東南アジアの気候に応じて設計された．

全体的に見ると，ショップハウスの建築群の統一感が強く感じられ，同じルールで揃われている．

b）平面の構成要素

一階は，奥行きの幅が約1．5mのベランダウェイがあり，街路側の空間が，店舗，食堂，事務所，小規模の工場など多様な用途に使われ，一階の中央には中庭があり，奥が居住空間となっている．

二階と二階以上の部分は居住空間である．（建物全体が住居となっているものもある）．

ほとんどのショップハウスは切妻屋根を採用したので，屋上空間がないが，隣家と壁を共有しながら長屋式になり，統一感が感じられる．

５．騎楼建築群の風貌特徴

（１）騎楼建築の代表的な要素の記録

a）柱の様式

中国の騎楼建築は，主に角柱を採用し，汕頭市小公園と海口市騎楼老街には，角柱と円柱の数の比率は約7：3となっている（図10）．

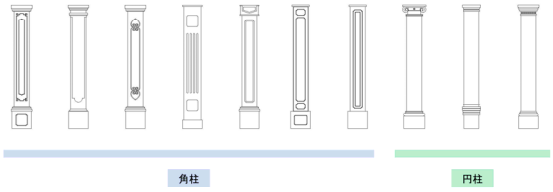

図 10　代表的な柱の様式（著者作成）

b）窓の様式

騎楼建築の窓は，概ねアーチ型，標準型，組合せ型，特殊例と四種類を分類することができる．

まず，アーチ型の中には，半円アーチ，尖頭アーチ，楕円アーチ，イスラム式アーチと四種類にまとめることができる．一般的に，アーチはさまざまな立派なピラスターで結ばれ，プロポーションの調和と全体の構図の統一が重視された．

標準型の窓とは，従来の中国伝統的な民居建築からよく見える角型窓であり，長方形や正方形の枠が縦横両方向にもっと小さく分割された．

組合せ型とは，開口部は規則的な四角形であり，伝統的な窓の上に装飾用のアーチが設けられた．

特殊例とは，街区全体のルールに従わず，異形な窓を作ったり，窓の様式を混ぜたりして，特別で周辺の建築と違う立面の表情を作ったものである．

図11　中山路北立面展開図（360度動画により著者作成）　（上の図は道路の西側，下の図は道路の東側）

c）ファサードのモチーフの様式

ファサードのモチーフについて，文字型，図案型，特殊例，組合せ型と四つの種類をまとめた．

まず，文字型は，壁面にお店の名前や，政治的な標語，対句などの漢字が書かれたものであり，違うフォントの変化により，中国的な要素を極めて特徴として表現している．

図案型は，菱形・円形・中国結び・回字紋などのシンプルな図案が左右対称で設けられたものである．

特殊例には，植物の竹・松・梅・草・花や，動物の鳥・錦鯉・牛，器物の剣・壺・扇などの縁起の良い意味を持つものが運用された．

組合せ型とは，文字が必ず真ん中にあり，両側に図案，植物，動物，器物などのパターンがある様式である．

d）パラペット壁の様式

騎楼建築のパラペット壁は，欄干型，曲線型，組み合わせ型と分類することができる．

欄干型とは，西洋式の飾り鉢が多く使われたパラペット壁である．手すりと柱頭の位置関係（高さ）により，違う表情を出している．

曲線型とは，手すりがなく，大量の曲線が使われたパラペット壁である．風通しの円形の穴が開けられたものが多い．豊富な曲線で建築の輪郭を作ることにより，街区の魅力的なスカイラインが形成された．

組合せ型とは，飾り鉢・風通しの穴・曲線などの要素が同時に存在しているパラペット壁である．真ん中の部分がもっとも注目され，特別な設計も行われたので独自の個性が極めて豊かに見える．

（２）海口市中山路騎楼建築に基づく分析

中山路は海口市騎楼老街歴史的街区の中心街路の一つであり，1662年に建設された．現在，街区の核心地域となっており，騎楼建築群の鮮明なイメージを伝えてくれる．

中山路は東西に走る道路であり，長さ338m，道幅は約11．5mである．建物一階のベランダウェイの幅員は3mほどがあり，連続的な歩行空間が確保されている．道路両側に約80棟の騎楼建築がうまく保存維持されてある．

ここでは，実地調査を通じ，中山路北側の騎楼（図11）に注目して分析を行う．

a）全体分析

中山路北側には，総計55の建物が現存しており，全部が騎楼建築である．その中，2～3階建ての騎楼建築がほとんどであり，全体の約9割を占めている．（図12）

ファザードの豊かさ，建物の広さ・高さの違い，様々な形式のパラペット壁などにより，騎楼建築のバリエーションを展示してくれた．

建築棟数	総計	55	100%
その中	2階建て	35	64%
	3階建て	13	24%
	4階建て	4	7%
	5階建て	3	5%

図12　中山路北側騎楼建築の階数分布（著者作成）

b）窓の様式分析

図 13 で示したように，中山路北側の騎楼建築の窓の様式について，アーチ型・標準型・組合せ型・特殊例の割合はそれぞれ 38%・18%・29%・15%と占めている．

c）ファサードのモチーフの様式分析

ファサードの様式をまとめると（図 14），二重線のように，上の線は文字の有無，下の線は図案型・組合せ型・特殊例とモチーフなしという結果を表した．

中山路北側三分の二の騎楼建築には文字が書いてある．また，組合せ型の騎楼建築は最も多くて，42%の割合を占めた．図案型・特殊例とモチーフなしの騎楼建築の割合が近く，違う様式の騎楼が中山路にバランスよく散らばっている．

d）パラペット壁の様式分析

図 15 で示したように，パラペット壁の様式について，欄干型・曲線型・組合せ型の騎楼はそれぞれ 40%・24%・29%の割合を占めている．また，パラペット壁のない騎楼が非常に少ない．

窓の様式	類別	55	100%
その中	アーチ型	21	38%
	標準型	10	18%
	組合せ型	16	29%
	特殊例	8	15%

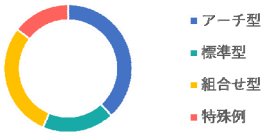

図13　窓の様式の分布（著者作成）

文字の有無	類別	55	100%
その中	あり	37	67%
	なし	18	33%

モチーフの様式	類別	55	100%
その中	図案型	9	16%
	組合せ型	23	42%
	特殊例	11	20%
	なし	12	22%

図14　ファサードのモチーフの様式の分布（著者作成）

パラペット壁の様式	類別	55	100%
その中	欄干型	22	40%
	曲線型	13	24%
	組合せ型	16	29%
	なし	4	7%

図15　パラペット壁の様式の分布（著者作成）

e）中式と洋式要素の分析

以上騎楼建築各部の様式を考えて分析すると，すべての要素を中国式・西洋式・中洋折衷と三種類をまとめることができる．

図 16 で示したよう，一つの騎楼建築にも，中国式の「中国結びの装飾」・「漢字の店名」，西洋式の「半円アーチ型の窓」，中洋折衷の「菱形とアールヌーボーのパターンの組合せ」が混在しており，魅力を表してくれた．

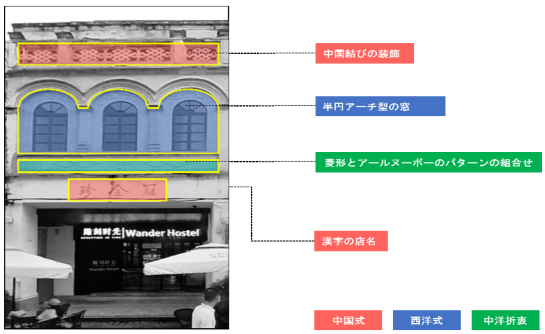

図16　騎楼建築の異なる風格の要素（著者作成）

また，一般的な洋風建築と似ている騎楼建築（図 17）には，中国式の「伝統的な四角形の木製窓」，西洋式の「風洞のある曲線型パラペット壁」・「楕円アーチと円柱の装飾」，中洋折衷の「漢字とアールヌーボーのパターンの組合せ」などの要素が見られる．

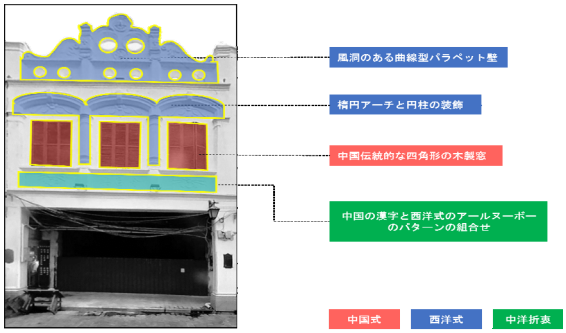

図17　洋風建築と似る騎楼建築の風格要素（著者作成）

その他，図 18 で示したよう，中国式の「漢字の店名」・「伝統的な四角形の木製窓」と西洋式の「イタリア式飾り鉢と風洞のある組合せ型パラペット壁」・「アールヌーボーのパターン」が設けられた騎楼建築では，各部位において風格が独立で見えるが，違和感なく中洋折衷というイメージを伝えてくれたと考えられる．

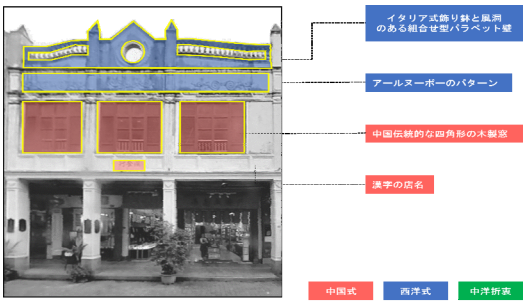

図 18　各部位に独立した風格のある騎楼建築（著者作成）

６．結論

歴史的街区は最も都市文化の発展脈絡を体現する担体であり，その独特な建築様式と空間配置などは高い文化と芸術の価値を持っている．

以上の分析を通じ，中国の騎楼建築の起源・形態構成・風貌特徴を明らかに提示した．東南アジアから拡散してきた建築様式だが，中国にもたらしてきてから，中国本土の設計風格・気候条件・建築材料などに合わせて，中国ならではの中洋折衷の建築が創造された．

また，本研究では，騎楼建築の特徴要素を「中国式」・「西洋式」・「中洋折衷」とまとめた（表 1）．異なる風格の建築要素が建物に共存し，異なる外観の建築が組み合わさって，変化に富んだ騎楼建築の街並みが作り出されて，魅力的な空間形態が形成されたと考えられる．

騎楼建築は東洋と西洋の建築文化が融合した歴史的な建築であり，貴重な文化遺産となっているため，今後でも建築街区の魅力を海内外に発信することは非常に大切だと考えられる．

表 1　騎楼建築の特徴要素の風格分類（著者作成）

窓の様式	アーチ型	標準型	組合せ型	特殊例
ファサードのモチーフの様式	文字型	図案型	組合せ型	特殊例
パラペット壁の様式	欄干型	曲線型	組合せ型	中国式 西洋式 中洋折衷

謝辞：

本論文の作成にあたり，多くの方々にご指導を賜りました．本論文を自筆するにあたり，法政大学デザイン工学部建築学科の高村雅彦教授に，副査として適切なご助言を賜りました．この場を借りて，感謝申し上げます．

また，夏季研究室大会で石井翔大氏（明治大学）から助言を頂いて，感謝を申し上げます．

また，本研究の遂行にあたり，実地調査の際に，快くインタビューをさせて頂いた地元民の皆さんに，感謝いたします．

最後に，安藤研究室の皆様には，本研究の遂行にあたり多大なご助言，ご協力頂いて，一緒に充実な二年間を過ごして，ここに誠意の意を表します．

参考文献

[1]林　琳，「港澳与珠江三角洲地域建筑――广东骑楼」，北京：科学出版社，154 p，2006 年

[2]陳 世海，「台湾宜蘭市における騎楼空間の歩行安全性及び生活の質に関する研究」，日本デザイン学会，デザイン学研究，pp.　43-48，（2007 年 54 巻 2 号）

[3]彭　长歆・杨　晓川，「骑楼制度与城市骑楼建筑」，华南理工大学学报，pp.　29−33，（2004 年 6 巻 4 号）

[4]橋谷　弘，「東アジアの近現代都市―その共通点と相違点―」，東京経大学会誌（経済学） 301，pp.　27-42，（2019 年）

[5]肖　宗平，「汕头小公园开埠区骑楼建筑研究」，广州大学修士論文，2018 年

[6]陳　潇，「海口騎楼建築研究」，南京工業大学修士論文，2013 年

[7]符　代芸，「在保护中发展, 在发展中保护――海口骑楼老街开发与保护现状调查研究」，遗产与保护研究，pp.　80−85，（2017 年 5 巻）

[8]安藤　直見，「ペナン島・ジョージタウンにおける街並みの空間構成ーショップハウスの形態論」，住宅総合棚究期団研究面 4 育文集 No.　31,2004 年版

[9]合田　美穂，「シンガポールの「牛車水」の歴史的発展からみた華人社会と文化の変容」，日中社会学研究，Vol.　No.　10,2002 年

[10]宇高　雄志，「多民族共住の住居空間デザイン-マレーシアの地域社会を事例として-」，ゴードー株式会社，1997 年

[11]茂木　計一郎・他，「騎楼型民居の構成に関する研究」，住宅総合研究財団研究年報，p.　309-323(1992 年 18 巻)